

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

製品名	食品機械用グリース A98L-0040-0259
供給者の情報	
会社名	ファナック株式会社
住所	〒401-0597 山梨県南都留郡忍野村忍草3580
電話番号	0120-240-613
ファックス番号	0120-240-673
お問合せ先	https://www.fanuc.co.jp/ja/contact/form/index.html
推奨用途及び使用上の制限	
推奨用途	グリース

2. 危険有害性の要約

GHS分類	
環境に対する有害性	
水生環境有害性（短期（急性））	区分3
水生環境有害性（長期（慢性））	区分3
GHSラベル要素	
絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	環境 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害
注意書き	
安全対策	P273 環境への放出を避けること。
廃棄	P501 内容物および容器は、法規制に従って廃棄すること。
GHS分類に関係しない又はGHSで扱われない他の危険有害性	
物理化学的危険性	重大な危険性はない
健康有害性	高圧で皮膚組織の内部へ注入された場合、重度の障害を起こす恐れがある。 過度にばく露すると眼、皮膚あるいは、呼吸器系に刺激を与えることがある。
環境有害性	追加すべき危険はない
備考	この物質を専門家の助言なしで、「1. 化学品及び会社情報」に記載の推奨用途以外に使用すべきではない。 健康に及ぼす影響を調べた結果、個人差はあると思われるが、化学的ばく露により潜在的な健康リスクを与える可能性がある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 成分及び含有量	混合物			
	化学名又は一般名	CAS番号	含有量（質量%）	GHS危険有害性 コード
	アルキルアシッドフォスフェートアミン塩 (アミン類 C12-14 イソオクチルリン酸塩)	68187-67-7	0.1-<1	H302, H312, H314(1C), H400(M factor 1), H410(M factor 1)
	炭酸カルシウム (カルボン酸、カルシウム塩 (1:1))	471-34-1	1-<5	なし
	セバシン酸ナトリウム	17265-14-4	1-<5	H319(2A)
	ポリエチレン	9002-88-4	1-<5	なし

4. 応急措置

吸入した場合	通常の条件下での使用において、本物質は吸入しても有害性は無いと予測される。
皮膚に付着した場合	石鹼と水で接触した部分を洗浄する。 製品が皮下または、体内のいかなる場所に注入された場合、傷の外観またはその大きさに関係なく、被害者は直ぐに緊急処置を行う為に医師の診断を受ける必要がある。高圧注入による初期症状が、小さいか皆無であっても、事故が起きて数時間以内に早期処置を行うと、傷が大きく広がるのを明らかに軽減できる。
眼に入った場合	水で完全に洗い流す。もし刺激が治まらない場合は医師の手当を受ける。
飲み込んだ場合	応急処置は通常必要ない。もし違和感がある場合は、医師の手当てを受ける。
医師に対する特別注意事項	なし

5. 火災時の措置

適切な消火剤	消火には噴霧水、泡、ドライケミカル、炭酸ガスを使う。
使ってはならない消火剤	直接の水噴射
特定の消火方法	その現場から避難させる。 消火剤やその希釈剤が、水路、下水、あるいは上水道へ流入することを防ぐ。 消防士は、標準の防護装備を使用し、建物内部やタンク内等では内蔵型呼吸機（SCBA）を用いる。 火にさらされた表面を冷却したり、人を守るために噴霧水を使用する。
有害な燃焼生成物	アルヒド類、不完全燃焼時の生成物、炭素酸化物、煙、煙霧、酸化硫黄
燃焼特性	
引火点（℃）	>188（クレーブランド開放式）
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発限界－下限（容量％）	データなし
爆発限界－上限（容量％）	データなし
自然発火点	データなし

6. 漏出時の措置

通報手順	流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関係機関に通報する。
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	流出物に触らない。 消火に関する情報は「5. 火災時の措置」を参照。 重大な有害性については「2. 危険有害性の要約」を参照。 応急処置については「4. 応急措置」を参照。 最低限必要な保護具については「8. ばく露防止及び保護措置」を参照。 特殊な状況下や緊急時対応の専門家の判断により、追加の保護策が必要になることもある。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
陸上での漏出	危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。 流出物質を掃き集め、リサイクルあるいは、廃棄する適切な容器にすくい入れる。
海上での漏出	危険を冒さずにできる場合は、漏れを停止させる。 直ちにオイルフェンスにより、流出物を封じ込めること。 他の輸送業者にも警告を行うこと。 表面からすくい取る。 ※海上での漏出および陸上での漏出についての記載内容は、この物質の最も起こりそうな漏出シナリオに基づいている。しかし、地理的条件、風向、気温、海上での漏出の場合は波、流れの方向、速度によってとるべき行動がおおきな影響を受けるかもしれない。こういった場合、その地方の専門家に相談するべきである。 注：その地方の規制により、とるべき行動が指示あるいは制限されていることがある。
環境に対する注意事項	水路、下水道、地下または閉塞した場所へ流入することを防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策、安全取扱注意事項、接触回避	滑りによる事故防止のため、少量のごぼれ、洩れを避けること。
静電気蓄積	本物質は静電気を蓄積しない。
保管	
安全な保管条件、安全な容器包装材料	密栓していない、あるいは製品表示のない容器には貯蔵しないこと。 禁忌物質から遠ざけること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度／基準値（注：複数の値がある場合、加算的ではない）

物質名	形態	日本産業衛生学会	ACGIH
炭酸カルシウム (カルボン酸、カルシウム塩 (1:1))	吸入の可能性 がある粉塵	TWA 2mg/m ³	—
炭酸カルシウム (カルボン酸、カルシウム塩 (1:1))	粉塵総量	TWA 8mg/m ³	—
ポリエチレン	吸入の可能性 がある粉塵	TWA 2mg/m ³	TWA 3mg/m ³
ポリエチレン	粉塵総量	TWA 8mg/m ³	—
ポリエチレン	吸入可能な粒子	—	TWA 10mg/m ³

生物学的限界値
設定されていない。
注：許容濃度／基準値は目安として示されている。適用される規制に従う。

設備的対策	通常の使用状況で適切に換気してあれば、特に必要なものはない。 注：必要な保護レベルと管理方法は、潜在するばく露条件によって変わる。
保護具	保護具を選択する際は、実用性、取扱い方法、濃度およびばく露され得る可能性を考慮する。 本物質を使用する際の保護具の選択についての情報は、以下に示すように、想定し得る通常の使用方法に基づいている。
呼吸器用の保護具	通常の使用条件下で適切な換気を行っている場合、別段の保護措置を必要としない。 注：設備的対応によっても空気中の濃度が、作業員の健康を保護するのに適切なレベルに保たれていない場合、国家検定合格の呼吸保護具を使用することが適当と思われる。該当する場合は、呼吸保護具の選定、使用および保守は法令に従わなければならない。 空気中の濃度が高い場合、承認された空気供給式呼吸器を加圧モードで使用する。 酸素レベルが適当ではない、ガス／蒸気の警告特性が貧弱、空気浄化フィルターの容量／定格オーバーの場合は、緊急ボンベ付き空気供給式呼吸器の使用が適切であると思われる。
手の保護具	通常の使用条件下では、別段の保護措置を必要としない。 注：ここで提供している具体的な保護手袋に関する情報は、公表された文献及び、保護手袋の製造業者のデータに基づいている。保護手袋の適合性及び、浸透時間は、具体的な使用条件により相違する。保護手袋の選定における明確なアドバイス及び、使用条件での浸透時間については、保護手袋の製造業者に問い合わせること。 また、使用前に保護手袋を検査して、すり切れたり、損傷ある手袋は、交換すること。 本製品を使用する際に、推奨できる保護手袋の材質は、ニトリル、バイトンである。
眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具	接触が生じそうな場合、側面シールド付き保護メガネが推奨される。 通常の使用条件下では、皮膚の保護は必要でない。良い環境衛生規範に従って、皮膚との接触を避けるための予防措置を取ること。
衛生措置	本物質を取り扱った後、手を洗ってから飲食や喫煙をするなど、常に個人で適切な衛生的措置を続ける。 汚染物質を取り除くために定期的に作業着と保護具を洗濯する。 洗濯できない汚染された衣類及び靴などは廃棄する。 確実な備品管理を実施する。
環境規制	大気、水、土壌への汚染を抑制するため、適用される環境に関する法規制に従うこと。 また、環境への放出を防止又は抑制するため、適用される適切な管理方法を執り、環境を保全すること。

9. 物理的及び化学的性質

注：物理的及び化学的性質は、安全、健康、環境に関する情報のためのみに提供するものであり、製品の全ての性状を示したものではない。
また、物理的特性は、物質中のオイル組成に関するものである。

物理状態	固体
色	白又は灰色がかった白
臭い	特有
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲（℃）	>316（予測値）
可燃性	点火可能
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	
爆発限界－下限（容量％）	データなし
爆発限界－上限（容量％）	データなし
引火点（℃）	>188（クリーブランド開放式）
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	適用外
動粘性率（cSt、mm ² /s）	220（40℃）／36.7（100℃）
溶解度	無視できる
n-オクタノール／水分係数（log値）	>3.5
蒸気圧（kPa）	<0.013（0.1mmHg）（20℃）（予測値）
密度（g/cm ³ ）	0.87（872kg/m ³ 、7.28 lbs/gal）（15.6℃）
相対ガス密度	データなし
粒子特性	適用外
その他の情報	
形態	準液体
蒸発速度（酢酸n-ブチル=1）	データなし
酸化特性	「2. 危険有害性の要約」の項を参照

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	通常状態で安定。
避けるべき条件	過剰加熱 高着火エネルギー源
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	この物質は、常温では分解しない。
危険有害反応可能性	危険有害性のある重合はおきない。

1 1. 有害性情報

急性毒性（吸入）	評価項目データなし 毒性が極めて低い。組成物質の評価に基づく。
急性毒性（経口）	評価項目データなし 毒性が極めて低い。組成物質の評価に基づく。
急性毒性（経皮）	評価項目データなし 毒性が極めて低い。組成物質の評価に基づく。
皮膚腐食性／刺激性	評価項目データなし 常温では、皮膚の炎症は殆ど起きない。組成物質の評価に基づく。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	評価項目データなし 眼に短い時間軽度な不快感を及ぼす恐れがある。組成物質の評価に基づく。
呼吸器感作性	データ無し 呼吸器感作性物質は予測されない。
皮膚感作性	データ無し 皮膚感作性物質は予測されない。組成物質の評価に基づく。
誤えん有害性	データ有り 誤えん有害性は予測されない。材料の物理化学的特性に基づく。
生殖細胞変異原性	データ無し 生殖細胞変異原性物質は予測されない。組成物質の評価に基づく。
発がん性	データ無し 発がん性は予測されない。組成物質の評価に基づく。
生殖毒性	データ無し 生殖毒性物質は予測されない。組成物質の評価に基づく。
授乳影響	データ無し 乳幼児に害を与えることは予測されない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	データ無し 単回ばく露から臓器損傷を引き起こすことは予測されない。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	データ無し 長期または反復ばく露から臓器損傷を引き起こすことは予測されない。組成物質の評価に基づく。
その他の情報 高度精製基油（内容物）	動物実験では発ガン性はない。これらはIP-346、改訂AMES試験、他のスクリーニングテストをパスする。皮膚塗布試験および吸入試験での最小の影響があった。すなわち、肺がならんら特異性もなく免疫細胞に浸潤したこと、オイルが参出したこと、微少の肉芽腫ができたことである。試験動物に対して感作性はない。IARCでは高度精製油はグループ3（ヒトに対して発がん性について分類できない）に分類されている。

1 2. 環境影響情報

ここに示す情報は、この物質、成分および類似物質のデータに基づいている。

生態毒性 物質	水中生物に有毒であると予測される。長期間にわたり、環境に有害作用を与える原因となることがある。
土壤中の移動性 基油（ベースオイル）成分	本物質は、溶解度が低く、浮遊し、水中から陸地に移動することが予測される。 汚泥ならびに汚水固形物として分離し得る。
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
オゾン層への有害性	非該当

1 3. 廃棄上の注意

廃棄方法	供給された物質を適切に廃棄する。 廃棄に際しては、その時点での廃棄物の状態に応じて、適用される法律、規制に従わなければならない。
残余廃棄物	本製品は燃料として、密閉系の火力調整できるバーナーで燃やすか、または有害な燃焼物の生成を防ぐために特別に管理された設備で焼却するのが適している。
空容器に関する警告	空容器には残留物が含まれていることがあり、危険である可能性がある。 正しい指示を得ないで、容器の再充填またはクリーニングをしてはいけない。 空のドラム缶は適切に修理するか廃棄するまで、内容物を完全に取出し安全に保管するべきである。 空容器は、適切な資格を持つかまたはライセンスを受けた契約業者により、政府の規則に従いサイクル、回収、または廃棄するべきである。 容器に加圧、切断、溶接、ろう付け、はんだ付け、穴開け、研磨操作を加えたり、容器を熱、火災、スパーク、静電気、または他の発火源にさらしてはいけない。容器は爆発し、傷害や死亡事故を引き起こすことがある。

1 4. 輸送上の注意

陸上輸送	第1類、第6類の危険物及び高圧ガスと混載しないこと。 その他関係法令の定めるところに従う。
------	--

海上輸送（IMDG）	IMDGコードによると、海上輸送では規制対象外
海洋汚染物質	なし
航空輸送（IATA）	空輸に関する規定無し

15. 適用法令

この物質は、化学品の分類及び表示に関する調和システム（GHS）（JIS Z 7252：2019）に基づく区分によれば有害性があると見なされる。

国内の適用法令

労働安全衛生法

第57条の2（名称等を通知すべき有害物）

鉱油 政令番号168 10-20質量%

第57条（名称等を表示すべき有害物）

鉱油 政令番号168 10-20質量%

労働安全衛生法施行令

別表3-1 製造許可物質 なし。

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質（物質名、政令番号、含量）

非該当

第一種指定化学物質（物質名、政令番号、含量）

非該当

第二種指定化学物質（物質名、政令番号、含量）

非該当

毒物及び劇物取締法

非該当

消防法

非危険物

海洋汚染防止法

規制対象物質

船員労働安全衛生規則

該当

下水道法

鉱油類排出規制（5mg/L許容濃度）

廃棄物処理法

産業廃棄物

水質汚濁防止法

油分排出規制（5mg/L許容濃度）

国外の該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

下記の既存化学物質リストに記載されているか、記載・通知が免除されている。

AIIC（オーストラリア工業化学品インベントリー）

DSL（カナダ環境保護法の国内物質リスト）

IECSC（中国現有化学物質名録）

TCSI（台湾毒性化学物質リスト）

TSCA（米国有害物質規制法）

KECI（韓国既存化学物質名簿）限定的適用

16. その他の情報

参照文献

社内または供給業者のトキシコロジー研究結果
CONCAWEプロダクトドシエ
欧州炭化水素溶剤REACHコンソーシアムのような通商協会の刊行物
米国HPVロバストサマリー
欧州IUCLIDデータベース
米国NTP刊行物
必要に応じたその他の文献

本文の「3. 組成及び成分情報」に、記載したGHSのHコードは以下の通り。

H302	飲み込むと有毒 急性毒性（経口） 区分4
H312	皮膚に接触すると有害 急性経皮毒性 区分4
H314(1C)	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1C
H319(2A)	強い眼の刺激 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A
H400	水生生物に非常に強い毒性 水性環境有害性（急性） 区分1
H410	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性 水性環境有害性（長期間） 区分1

免責

この文書に含まれる情報および推奨事項は、弊社が有する情報および知見の範囲の限りで、発行時において正確且つ信頼できるものです。
この文章が最新版であることを確認する場合は弊社にご連絡ください。
この文書の情報および推奨事項は、使用者による検討、調査のために提供されています。
本製品の特定の使用目的への合致の有無については使用者においてご確認ください。
本製品の購入者が荷姿を変更する場合、健康、安全、その他必要な情報を含む書類を同封しまたは容器に添付するのは購入者の責任です。
適切な警告標示、安全な取扱い手順を、取扱者と使用者に提供して下さい。